

地域包括ケアへ 医療・介護連携

地域包括ケアシステムのキーワードの一つになっているのが医療・介護連携だ。道内では有志が集まり、ネットワークづくりや業務で抱える課題解決などに取り組んでいる。六月末に開かれた十勝連携の会(十むすの会)は「医療在宅連携を推進するコーディネート技術」釧路管内をエリアに活動している本音で地域連携の在り方を検討する会(CCL)は「退院カンファレンス」をテーマに研修会を開催。両研修会には地域の多職種百人以上が参加した。

CCLは本人・家族の思いや考え、他職種の役割、視点を理解できるよう、実際の退院カンファレンスを想定したロールプレイを企画。モデルとしたのはオリジナルの退院調整事例「退院を前に不安を抱える花子さん」だ。基本情報として脳梗塞で倒れて入院し、左片まひなどのほか、「住

CCL(釧路)

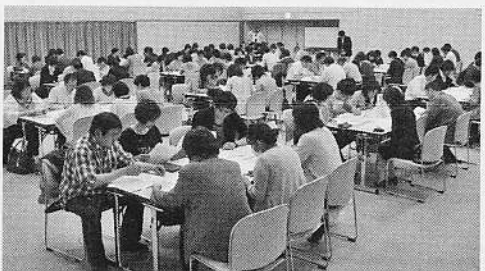
退院カンファレンス 想定しロールプレイ

理解し、グループワークでは参加者が専門性を生かしてニーズをア

安心して戻れるよう、加者が役割を交代しながら、「安心度」に着目した退院カンファレンスのロールプレイを行った。

ロールプレイでは他職種の役割を演じながら退院調整の在り方を学んだ

「トイレまでは行けると書かれているが、実際のトイレ動作は」 「外出するのは好きだが、他者に迷惑をかけるから不安と言っているのではないかな」など、各グループでは不



ロールプレイ終了後の発表では、「利用者の友人を含め、社会資源も活用しながら地域でどのように支えていくかという

他職種演じ立場理解も

足している情報や本人の思いを考えながらアセスメントを実施。ロールプレイに登壇するのは本人、医療ソーシャルワーカー、看護師、ケアマネ、理学療

セズメント。本人が病院から在宅に少しでも法士。グループ毎に参加者にはアドバイスシ